

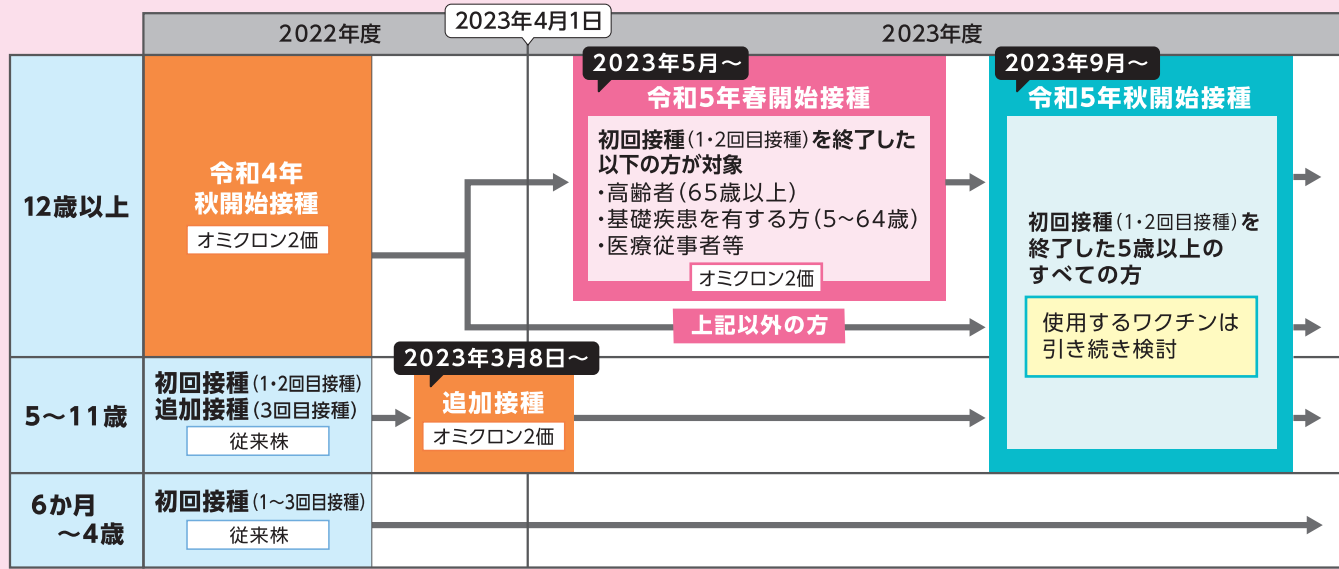


令和5年度も、自己負担なしで 新型コロナウイルスワクチンを接種いただけます。



令和5年度における新型コロナウイルスワクチンの接種のイメージ

 現行の特例臨時接種 = **全額公費**

 特例臨時接種の延長 = **自己負担なし**


よくあるご質問

Q1. 令和4年秋開始接種はいつまで接種できますか？

A1. 令和4年秋開始接種は令和5年5月7日で終了し、令和5年5月8日からは令和5年春開始接種が開始されます。まだ令和4年秋開始接種を受けていない方のうち令和5年春開始接種の対象者でない方(12歳以上の健常な若年者)は、令和4年秋開始接種を希望される場合には、必ず令和5年5月7日までに接種してください。(本来は令和5年3月31日までしか接種できませんでしたが、期間を延長しました。制度上、期間の再延長はありません。)

Q2. 私は初回接種は終了しましたが、追加接種は新型コロナウイルスワクチンをまだ〇回しか接種していません。多い人だと合計5回接種しているようで、私もまだあと何回か接種できると考えていますが、その理解で正しいでしょうか？

A2. 追加接種については、ワクチンを〇回接種する権利があるという考え方はとっておらず、新型コロナの流行が見込まれる時期等を勘案し、**一定の期間の間、それぞれの期間の対象者に1回接種を行うこととして**います。その期間の対象者に当てはまらない場合、次の期間が来るまで、接種することはできませんので、接種を希望する対象者の方は、早めの接種予約をご検討ください。

Q3. 65歳以上の高齢者は令和5年度は必ず2回ワクチンを接種しなければならないのでしょうか？

A3. 65歳以上の高齢者の方など重症化リスクが高い方については、国の審議会において、ワクチンの効果や持続期間等を踏まえて通常、秋から冬に1回のところを、前倒しで1回追加することが望ましいとされました。
接種は義務ではなく個人の判断によるものですが、**令和5年度は、春夏(5月8日～8月末まで)と秋冬(令和5年9月～)の2回の接種をお勧めしています。**

Q4. なぜ5月から令和5年度の接種が始まるのですか？

最後にワクチンを打ってからどれくらいでワクチンを打てばよいのですか？

A4. 65歳以上の方には、春夏(5月8日～8月末まで)と秋冬(令和5年9月～)の2回の接種を行うこととしています。これは、新型コロナの流行が見込まれる時期等を勘案し、一定期間の間に、それぞれの期間の対象者に接種を行うものです。
ここ数年、年末年始に流行していることから、5歳以上のすべての国民は令和5年9月から年末までの間に令和5年秋開始接種を開始することに加え、ワクチンの重症化予防効果は高齢者等では6か月程度で低下するとの報告もあることや、令和4年秋に開始された高齢者の方のオミクロン株対応ワクチンの接種のピークは令和4年11月～12月であったことから、高齢者の方等を対象に令和5年春開始接種を5月に開始します。
いずれの方についても、最終接種からの接種間隔は薬事上少なくとも3か月以上あけることとなっていますが、必ずしも3か月後に打つことをお勧めしているものではありません。**接種を希望される方は、国が推奨している時期に接種を行うように**しましょう。

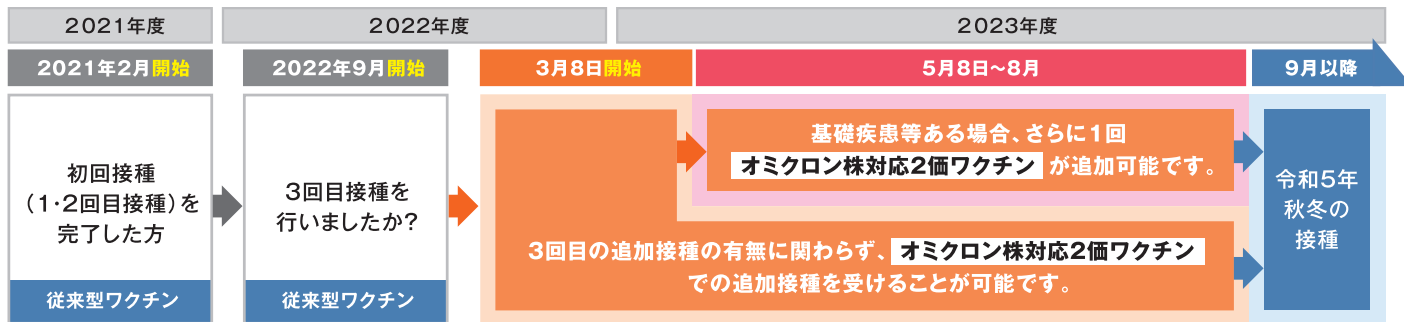
5歳から11歳のお子様への追加接種は



3月8日から、オミクロン株対応2価ワクチンになります。

5歳から11歳のお子様の接種スケジュール

- オミクロン株対応2価ワクチンは、少なくとも1・2回目接種を完了した5～11歳のお子様を対象です。
- 最後の接種から3か月以上、間隔をあけて接種します。ファイザー社の5～11歳用のオミクロン株対応2価ワクチンを使用します(※)。(※)ファイザー社の12歳以上のものに比べ、有効成分が1/3になっています。



初回接種(1・2回目接種)が
まだの方

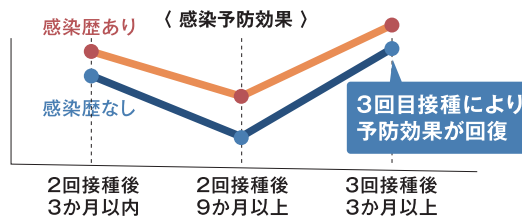
まずは、1・2回目接種(従来型)を受けてください。

(※)1・2回目接種(従来型)が完了すれば、最後の接種から3か月以上間隔をあけて、オミクロン株対応2価ワクチンを接種できます。

Q1. 3回目接種の効果は、どのようなことが分かっていますか?

A1. 従来型ワクチンの3回目接種により、現在流行しているオミクロン株に対して、感染しにくくなる効果が期待できます。

米国において、5～11歳の子どもの対象とした研究で、従来型ワクチンの初回接種の効果は徐々に低下していきますが、従来型ワクチンの3回目の接種後3～5か月経過した後の感染予防効果が約50%程度に回復していたと報告されています。また、過去に新型コロナウイルスに感染したことのある子どもでは、より高い効果(60%以上)が認められています。



出典:Khan FL et al. Estimated BNT162b2 Vaccine Effectiveness Against Infection With Delta and Omicron Variants Among US Children 5 to 11 Years of Age. JAMA Netw Open. 2022 Dec 1;5(12):e2246915.

Q2. 子ども用のオミクロン株対応2価ワクチンは、海外で使用された実績はあるのでしょうか?

A2. 子ども用のオミクロン株対応2価ワクチンは米国で既に使用されており、安全上の大きな問題はないと報告されています。

米国においては、2022年10月から子ども用に使用されており、米国CDCの報告によれば、80万回以上接種された実績に基づいて、安全性の評価が行われています。米国で接種を受けた方や親などの報告に基づくデータによると、発熱は約19%、疲労感は約30%、頭痛は約20%の方に現れたとされています。また、医師等による報告に基づくデータによると、重い有害事象とされた事例はまれであり、接種後の死亡や心筋炎と報告されたものはないとされています。

◎ワクチンを受けるにはご本人の同意が必要です。また、5歳から11歳のお子様のワクチン接種には、保護者の同意と立ち会いが必要です。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、ワクチンを受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。

◎予防接種健康被害救済制度があります。

予防接種では健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナウイルスワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナウイルスワクチンについて」のページをご覧ください。

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

